

令和5年度 第1回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

- 1 協議会名.....令和5年度...第1回 安曇野暮らし支援協議会....
- 2 日 時.....令和5年4月18日 午前10時から11時45分まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所...4階...大会議室東....
- 4 出席者.....横田会長、安谷屋副会長、浅川委員、荻原委員、倉品委員、山下委員、
横内委員、北村委員....
- 5 市側出席者.....沖市民生活部長、赤沼移住定住推進課長、所移住定住推進課長補佐、
平野移住定住推進係主査、奥村移住定住推進係主査
- 6 公開・非公開の別.....公開....
- 7 会議概要作成年月日.....令和5年4月27日....

協 議 事 項 等

[次 第]

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 役員を選出（会長・副会長）
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 会議事項
 - (1) 安曇野暮らし支援協議会について
 - (2) 目標人口と取組の方向～総合計画 後期基本計画より～
 - (3) 令和4年度の実績
 - (4) 令和5年度の事業予定
 - (5) その他連絡
 - (6) 各団体からの連絡・相談事項
- 7 閉 会

[会議概要]

○役員選出 会長に横田委員、副会長に安谷屋委員を選出

○会議事項

(1) 安曇野暮らし支援協議会について【資料1】

(2) 目標人口と取組の方向 ～総合計画 後期基本計画より～【資料2】

- ・ 事務局より、【資料1】協議会設置要綱の一部改正について、また【資料2】安曇野市総合計画後期基本計画資料を抜粋して説明。
〈意見等〉

横内 安曇野暮らし支援協議会設置要綱の中で、協議会は移住定住の情報発信や受け入れ、支援に関する連絡調整を行うと記載されている。おそらく移住された方が、今度生活者になったときに、現在暮らしている方との間のコミュニケーションだとか、受け入れについてはどうなのか。その部分を心配される方は多いし、地元側にも課題はあるものと感じている。計画に定める目標値を見ても、何人移住してもらおうという数値のみだと、この先、安曇野市の社会がどうなっていくのか不安もある。そういった議論はどこでするのか。

⇒**事務局 所** 移住者の方が市民になり、地元の皆さんと一緒にやっていくことについては、私達も非常に課題だと考えている。同じ部内に、地域づくり課がある。区の

事務局として、市民の皆様へ区の活動へ理解いただけるよう取り組んでいるところだが、やはり区への加入率が減るなどの課題も抱えている。区に加入してほしいとか、地域で何か自分を発揮できることを紹介してほしいとかっていうことは、これから移住推進をしていく中で私達も積極的に情報提供していかなくてはならないことだと認識している。この協議会で、議論してというところまでは、今のところ想定していないが、非常に課題だと捉えている。

横内 現状として、移住者の方たちが区へ入りづらいとか、移住者が区に入ってきてくれないといった問題があることの意味としては、逆に自治組織にも問題があるんじゃないかということ、一つ浮き彫りにさせないといけないように感じている。本当に実際に起きていることというのは、移住された方が住むところの住民組織に入れるか入れないか。それが生活者になったときに安曇野に来てよかったと思えるかどうかの、すごく重要な部分のような気がする。なので、どこかで議論がされるんだったら、ここでやらなきゃという思いもある。

⇒**事務局 赤沼** 地域づくり課で同じ悩みがあり、それは全庁的にも同じ。今、おっしゃっていただいた生活者になったときの問題は、やはり市としても、まずは「隣組」を大切に、小さなコミュニティがあって生活ができていることを理解してほしいと思う。移住は素敵なことばかりじゃないということも認識していただき、人と人とのコミュニティが成り立って生活があるっていうところを、移住検討者にお伝えしていきたい。福井県池田町では、区長会の提言として移住者の心得を説いた「池田暮らしの七か条」が話題になった。やはり住民として見れば、移住された方にもやっぱり区に入ってもらいたい、地域の活性化を目指してほしいっていうのがあると思う。また後ほど説明させていただくが、この協議会とは別のネットワークを組織していく中で、市民の皆さんと移住を経験した皆さん、そういったネットワークを通じて、地域づくり課への課題共有ができればいいかなと思っている。

(3) 令和4年度の実績【資料3】

- ・ 安曇野市 事務局資料に沿って説明。
〈意見等〉

山下 私が携わっていることもあり、一つ追加でお話させていただく。おためし住宅の利用者が令和4年度増えている要因として、令和2年度の受入れは行政が行っており平日のみの対応だった。4年度には、私達ベースキャンプ安曇野が委託を受け、休みの日でも入退室対応させていただいた。そのため土日祝日の受入れが可能となり、利用者の選択肢が増えたことも一つ増加した要因になると考えている。

⇒**事務局 平野** 他の自治体でもお試し住宅を実施しているところが結構あるが、やはり行政職員が対応するため、入退室日を平日に限定しているところもある。また、自治体の窓口で相談することを条件としているところもある。安曇野市のおためし住宅では、ベースキャンプ安曇野が入居期間中におためし住宅で移住相談に乗っていただけなので、他の自治体と比べ、一つ上のレベルで提供できていると感じる。
(※令和2年度以前の行政による受け入れは、土日祝日は退出のみ対応)

(4) 令和5年度の事業予定【資料4】

- ・ 安曇野市 事務局資料に沿って説明。
〈意見等〉

横内 生活環境の場として、安曇野市を選択する人がたくさんいる。若い方、特に子育て世代をターゲットにして来てもらうとなると、生活の基盤である経済活動、仕事、どうやって稼いでいけるかってのもすごく重要だと思う。おそらく働いている人の多くは松本に行ってしまう、結局この地域の中で循環が起きてないんじゃないかと思う。そういった施策を紐づけしていただいて、ちゃんと経済が上手く回るよ

うな仕組みが必要じゃないかと常々感じている。大都市圏でいろんなPR活動をした
りする中で、安曇野市出身のいろんな経済界で活躍している方っていうのがいらっ
しゃって、そういった方から支援を、なかなか難しいかもしれないが経済的な繋が
り、人脈作りみたいなのができないかなと思っている。応援団づくり。

山下 例えば県人会の方たちに応援団となってもらい、お力添えいただくのはどうか。
東京にいるけれども、やっぱり地元信州が好きなんですよっていう方も多くいらっ
しゃると思う。

⇒**事務局 所** 最初にまず経済活動というところで、やはり子育て世帯の移住相談、お仕
事の相談を受けた際には、商工労政課とも話をするなど、相談をうまく導けるよう
な体制づくりが大事だと考えている。セミナーの中でも仕事に関わるセミナーに参
加するなどといった取り組みをしている。具体的に何かうまく繋がれ、相談者の
方が次のステップに進めるような体制づくりの課題はある。

横内 例えば何年か前の長野県主催のセミナーで、首都圏からの移住でまず 200 万円
で、移住先で新たな事業を起こすソーシャルビジネス創業支援金は最大 200 万円を
受けられますっていう宣伝をしていた。私は実際に受けたことあるから分かるが、
そんな簡単なものじゃない。かなりハードルが高くて、非常に難しい。でも、そう
やって移住先で事業を起こそうっていう方たちがやっぱりいる。補助金頼みだけで
はなく、もっとうまく循環できるような仕組みも、それこそ経済的な関係団体の方
たちが入っているので、うまく取り組みの中に入れて方がいいんじゃないかなとい
うふうに思う。

山下 4～5年前、商工会の方で女性の創業支援金のような補助が出たときにそれを
利用された移住相談者さんがいた。さっき横内さんがおっしゃった創業支援金は、
エリアが広くて、なおかつ色々な人が申し込んでくるので、やりたいという志はあ
っても、通過できるレベルまでのハードルが高過ぎて難しく、断念してしまうのが
もったいない。もうちょっと小さいエリアで、安曇野エリア内だけで応募できる補
助金など、対応していただけるものがあればいい。そもそも移住するっていうのは、
結構キラキラした部分に取り上げられがちで、キラキラ移住がよく目立つが、そう
じゃなくて普通に移住して、普通に仕事して、普通に暮らしたいという方も多いの
で、やっぱりそういう形の方の要望も叶えていただける政策があるといいと思う。

安谷屋 商工会では、昨年度は少なかったが、やはり県外から創業と移住っていう形
での相談はあった。ちょうどコロナ前だと、商工会で独自のメニューは持っていな
いが、安曇野市で作った補助メニューなどを提案させてもらっていた。その当時は、
家賃の補助メニュー、3年間家賃半額補助する制度があり、それがやはり魅力的で、
多分1年を終えずに予算枠がいっぱいになってしまったと思う。それがなくなって
しまって、現在は空き店舗の改修経費補助というメニューへ切り替った。金額は確
か50万円（※令和5年度は80万円）だったと思う。空き店舗の改修にかかる経費
50万円を補助するっていうと、やっぱり県外から「安曇野市」で創業したいといっ
て来られる方よりも、「信州」で創業したい、「信州」というキーワードに惹かれて
来られる方が多いので、安曇野市と近隣市町村、いろんなところに聞きに行って補
助のメニューを比べられてしまって、違う市町村さんの方が良いついていうこと
で変えられた方も実際にいた。安曇野市がいいと目指してもらえるかどうかとい
うのもやっぱり大事ななと感じた。あとは先ほどのソーシャルビジネス支援金の件、確
かにこれから創業に向けていろんな準備をされている方に、こんなボリュームの創
業計画を纏め上げろっていうのは非常に難しい。出したら出したで枠が少なく、採
択率が1桁とか多分そのぐらいだったと思うが、そういうところで創業したいとい
う方の目線に立った支援策が、なかなかない印象は受ける。ただ、段々と創業し
たい方の相談も増えてきているので、ここからまた県外から移住も兼ねてとい
う方の相談も増えてくるだろうと期待している。

⇒**事務局 所** 私たちも相談窓口があるので、それぞれ皆さんから情報をいただいでご案内ができる部分があればと思う。

山下 どこの行政も移住に対する補助金メニューがどんどん増え、さらに拡充されている傾向にある。補助金目当てで移住してもらって意味があるのかどうか。人口減は理解できるが、補助金がなくても住みたいって思ってもらえる方に安曇野に住んでほしい、そういう人を増やしていかないといけないと思っている。それとおためし住宅を管理委託して思うのが、無料で良いのかということ。電気代も水道代も備品代も全部無料＝市民の税金から出ているものではないのかなど。それを利用者さんに使いたい放題使っていただくという部分に疑問を持っている。利用者に節度ある利用をお願いしますと伝えてはいるが、例えば滞在費、できないならば備品使用料とか、そういう部分で少し本当に微々たるものでも利用者さんからいただいてもいいんじゃないかと思う。移住希望者としてメール配信サービスに登録すれば借りられるという条件だけなので、登録して借りて観光目的でこっちに来てっていう方も少なからず見受けられる。本当に安曇野へ移住したいので、情報収集のためにここを使いたいって思う方に使っていただけるような方向性も考えていただければと思う。市民の税金を使っているというところで、もう少し利用のハードルを上げるっていうのはおかしいですけども、本当に移住したい人に使ってもらえる施設であればと思う。

会長 おためし住宅が無料でしか貸し出せない理由はある。例えば必ず移住相談をしたりとか、市内をいろいろ回ったりとか、そういう条件をセットにするっていうのは、以前からアイディアを出している。その辺のところは、今の方法で続けていくのであれば、移住に必ず結びつくような設定を組み込むということを条件に貸し出せるようにしないといけないのかなと思う。

事務局 赤沼 今まで委員の皆さんに様々議論いただいできた。当初は1日2000円徴収させていただいたが、旅館業法の関係で保健所から指摘が入り、使用料を無くした経緯がある。やはり1日2000円でも安かったので、移住目的でない方たちも多かった部分もある。例えば、平日1回は市役所に来て相談する、そういうルールであればできると思う。係内で検討させていただき、やはり質の良いじゃないですけども、先ほど言ったように、そういうときにコミュニティの話をしてもらうとか、市役所でカバー、工夫をしてみたいと思う。今、いろんな団体がおためし住宅ではないが、賃貸としてやっていただいでいる方たちがいるので、市としてみればそういう方におためし住宅をお任せしていこうと考えているが、今すぐに切り替えはできない。逆に今から、おためし住宅の消防設備を充実させるかっていうと、そこもちよっと考えていない状況がある。建物も30年経過して傷みも出てきているので、そういう兼ね合いも考えながら継続か廃止かを考えていきたい。

(5) その他

ア. セミナー・相談会に関わる依頼

事務局 所 資料4で説明したように、今年度もオンラインセミナー、首都圏での移住セミナーを予定している。委員の皆様には、セミナーでの講師や相談員として参加いただきたいと考えている。それぞれ正式に依頼するので、ご協力願いたい。

イ. 移住推進に関わる情報提供・提案

事務局 所 本協議会で移住推進に関わる情報共有を図るため、次回から様式を用意し、皆様から情報提供をいただけるようにしたいと思う。

(6) 各団体からの連絡・相談事項

横内 先ほども少し話したが、生活の場として『区』の関係。やっぱり区長だとか、役員の方は毎年変わってしまう。結果的に何か問題意識を持っていても続かない。

そこに何かちょっとメスを入れて、区の方のいろんな形、場所への参加っていうのをしないと、本当に生活者の生活の場として機能しなくなっちゃう。機能しているんだろうけど、いろいろ課題が出てしまうと思っている。例えばこういう場にもそういう関係者がいてもおかしくないんじゃないかと思う。

事務局 所 去年の秋、三郷の小倉区長さんが移住交流ツアーに協力していただいた。やはり課題意識を持っている区長さんもいらっしゃって、何かそこを広げられればいいなということで、先ほど説明したネットワークとか、市の地域づくり課とも連携をして取り組んでいきたい。

横内 空家の問題、活用のことに取り組んでいるとすごく思うが、実は持ち主の方の意識とか、意欲とか、そういうのがすごく大事。だから、今の僕の話も受け入れる側の問題っていうのはすごくいろんなところに影響していると思う。それをどういう形に変えていくのか、変えるための取っ掛かりのところを、どこかの場でやっていけないといけないんじゃないかと思っている。

事務局 赤沼 去年の小倉区の取り組みは自主的で、行政も少し関わらせていただいたが、そういった取り組みを他の区の皆さんにもお示ししたいと思い、広報紙に載せた。小さい記事になってしまったので伝えきれていないと思うが、こういう取り組みをやっているところがあるということも、積極的に周知したいと思う。そういったことを行政発信だけではなくて、区から、個人からっていう発信も一緒にやっていけると構えずに取り組んでいただける部分があるのではないかと思っている。ただ、やはり区長さんのお仕事の量がとても多いため、あまり負担をかけずに皆さんが自主的に行っていただけるような形で、小倉区の取り組みを示しながらやっていけたらなと思っている。

倉品 地域振興局では、秋に東京で2回イベントを企画している。私どもの立場としては、個々の市町村ではなくエリアで考える必要があるが、ある町にお住まいになれば、それは当然お近くの市町村にも影響が出てくる。例えばそれは生活していく中、買い物あるいはレジャーとか食事に出かけるっていう場面で、市町村だけではなくて、エリア全体の大きな活性化であるとか、若返りであるとか、充実であるとかっていうものに対して非常に大きな側面があるという認識を私自身も持たせていただいているので、また安曇野市さんの発信、またエリア全体を活性化する移住促進というものにお力添えできればと思っている。

北村 観光協会としましては、移住定住という受け皿の前に、やっぱりこの安曇野っていうのを認知していただくっていう部分が最初の入口だと思う。安曇野を知らずに移住は始まらないので、安曇野そのものの魅力を知っていただく最初のきっかけ作り、こちらはやはり観光協会の仕事だと思っている。この先、安曇野市の魅力の情報発信として、もっと間口の広いような情報をお届けしたいと考えている。

荻原 やはり移住される方が、貸家にしても、中古住宅にしても、家探しに苦労されているのがよく分かったので、これはまた協会の方に持ち帰って何かご協力できることはないかご提案させていただいて、少しでもお互いがウィンウィンになるようなことを宅建協会さんと協力しながら探したいと思う。

<終了>

以上